

## 第5回 仙台市総合計画審議会起草委員会議事録

日 時	平成22年5月12日(水) 10:00~12:00
会 場	仙台市役所2階 第四委員会室
出席委員	江成敬次郎委員、大滝精一委員、小野田泰明委員、小松洋吉委員、西大立目祥子委員、庭野賀津子委員、間庭洋委員、柳井雅也委員〔8名〕
事務局	山内企画調整局長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 今後の進め方について (2) 新総合計画の全体構成(素案)について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 新総合計画の策定に向けた審議会会長の所見 2 現総合計画の構成・内容と課題 3 新総合計画の全体構成(素案)

### 1 開会

大滝精一委員長

おはようございます。それでは、皆様方ご存じのとおり年度が変わってから、起草委員会での議論のあり方とか、特に基本構想と基本計画との関連の議論をもう少し進めてはいかかかと、市側のお考えもあってしばらく起草委員会がなかったのですが、今日はそのような話も含めて今後の進め方についてご検討いただければと思います。

それでは、第5回起草委員会を始めたいと思います。

最初に本日の議事録署名委員を指名したいと思います。西大立目委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

西大立目祥子委員

はい。

大滝精一委員長

それではよろしくお願いいたします。

続きまして議事に入る前に事務局から報告をお願いします。

梅内総合計画課長

おはようございます。ご紹介ありましたとおり4月に人事異動により新たに事務局職員となった者をご紹介申し上げます。

企画調整局長の山内でございます。

総合政策部参事の白川でございます。

総合計画課主幹の遠藤でございます。

そして、私は総合計画課長の梅内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

大滝精一委員長

どうもありがとうございました。

それではこれから議事に入ります。まず、議事の第1の今後の進め方についてです。資料1に基づきまして、先ほど私が口頭でお話いたしましたけれども事務局から今後の進め方について説明よろしくをお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 今後の進め方について

梅内総合計画課長

それでは資料1に基づきましてご説明を申し上げます。先ほど委員長からご説明がありましたとおり年度が変わったこともございまして、これまで起草委員会では都市像を中心にいろいろご議論をいただいておりますが、方向性が固まってきたことと同時に市内部でも各個別計画の策定が同じ22年度末を目指して動き出しております、その上位にあたります基本計画についても新しい方向性を固めていかなければいけない段階に至っております。このような状況を踏まえまして、大滝委員長並びに大村会長、宮原副会長とご相談して今後の進め方について検討させていただきました。基本構想と基本計画の全体構成についてあらかじめ方向性を出して、その中で個別の議論が必要な場合には個別の議論をして、それから総論の部分进行修改していくという、双方向からの議論のすり合わせが重要ではないかというご意見をいただきましたので、事務局で資料1「新総合計画の策定に向けた審議会会長の所見」としてまとめさせていただきました。そのまま読ませていただきます。

前回の審議会において、基本構想の構成や「都市像」等についてご議論いただいたが、「仙台らしさ」、「都市像の視点」、「人口」、「目標の設定」や「横串の視点」、「部門別計画改定との整合」など、基本計画レベルのご意見もいただいた。

これまで基本構想を詰めてから基本計画を審議していくということで、基本構想を中心に議論を進めてきたが、議論の進捗などを勘案すれば、基本計画の作業を進め、双方をすり合わせるが必要になっているものと感じている。

これらを踏まえ、副会長や起草委員長とも相談したところ、「議論の進捗を考えれば、そろそろ基本構想と基本計画を並行的に審議したほうが内容の整合を図れることに加え、市役所において進行中の部門別の主要計画改定との整合も図りやすい」ということで意見が一致した。

そこで、審議会の経過を踏まえて「4つの都市像」の方向を基本としつつ、基本構想と基本計画を並行的に調整できるよう、まずは総合計画全体の構成や内容の骨子づくり

の作業を急ぐこととし、検討の進捗等を踏まえながら、基本構想・基本計画の構成や内容を適宜修正していくこととしたい。

なお、起草委員会に付託しているのは基本構想素案の取りまとめであることから、一旦審議会に審議を戻さなければならないが、その際議論の基となる「基本構想と基本計画の構成」や「審議会の進め方」等の資料が必要と思われるので、事務局案を基に次回起草委員会において調製していただくこととしたい。

以上の点について、起草委員会委員のご了解を前提として、4月28日に予定していた第5回起草委員会を5月12日に延期し、ここで基本構想・基本計画の全体像などについてご意見を伺うこととしたい。その後、できれば5月下旬には審議会を開催し、議論を深めてまいりたい。

以上でございます。

大滝精一委員長

ありがとうございました。今後の進め方についてはこの資料1の審議会会長の所見で充分尽くされていると思います。これまで4回起草委員会を開いてきましたが非常に貴重なご意見をいただきまして、これらを反映していくということは当然ですが、これまでも何か具体的なイメージを持って議論すると基本計画の部分の話も入ってきまして、その都度今やっているのは基本構想ですからとても言うことはできないし、実際に委員の皆様もある程度基本計画のようなものを思い浮かべながら基本構想も議論するやり方を取っていらっしゃったと思います。私もそのような受け止め方で進めてきたと思います。基本構想は基本的には21世紀半ばくらいを想定してということですが、その議論だけを延々とするのはなかなか厳しいですし、ある程度基本計画という具体的な姿を思い浮かべながら逆に基本構想を見ていくことも必要だと思います。基本構想だけを最初にがちり固めてしまって一番上位の目標ができたので今度は基本計画にいきますというやり方をしても、結局また行ったり来たりしなくてはいけないということがこの後出てくるのではないかとこともありますし、ある程度基本構想についても皆様のご意見をいただいていたかと思いますので、今後の進め方としては、具体的な基本計画を議論しながら双方キャッチボールし、やり取りしながらさらに先に進めていく方が議論の中身も深まると思いますし、時間的にも制約のある中でこのような形で基本構想と、基本計画を一体的に進めながら必要に応じてやり取りしていく進め方がより生産的ではないかと考えております。

資料1につきまして皆様方から何かご質問等あれば伺いたいと思います。

小松洋吉委員

いいと思います。

大滝精一委員長

今の時点で先がよく見えていない、まだ依然としてよくわからないところもあるのですが、当面ここに書いてあるスタンスで次の5月下旬に予定されております審議会に向

けて基本構想、基本計画の全体像について、ある程度のベースをつくって議論できるような体制にもっていくような形で望みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

( はいの声あり )

大滝精一委員長

ありがとうございました。

それでは、資料 1 に書いてあるような対応で進めていきたいと思います。

## (2) 新総合計画の全体構成（素案）について

大滝精一委員長

続きまして、今日の本題になりますけれども、議事の第 2 の新総合計画の全体構成（素案）について議論したいと思います。

最初に、事務局から資料が出されておりますので、その説明を聞いた上でその内容に関して質疑や意見交換をいただきたいと思います。

それでは、資料 2、資料 3 に基づきまして事務局からご説明いただきたいと思います。

梅内総合計画課長

それでは、資料 2、資料 3 についてご説明させていただきます。

最初に資料 2 をご覧ください。現行の基本構想、基本計画、そしてそれに基づきます実施計画の記述内容とこれに対する今までの審議会と起草委員会でのご意見、あるいは市役所内部での現行のものに対する評価、事務局としての課題認識をまとめたものでございます。

基本構想の策定の趣旨につきましては、当然、前回策定時から 13 年間経っておりますので時代認識について修正が必要ですし、やはり表現としてより市民と共有できるようわかりやすい表現が必要であろうというご意見、評価をいただいているかと存じます。

都市像でございますが、4 つの都市像につきましては、これまでのご議論でも基本的な方向性は踏襲ということになっているものと理解してございます。ただ、都市像を統合した最上位の理念が必要ではないかというご意見があったかと思えます。都市像という文言自体もイメージが共有できないところがあるという意見がありまして、都市像に対する担い手である市民の「行動する市民力」ということを奥山市長もよく言っておりますが、「市民」あるいは「市民の力」に対する記載もこれからの基本構想ということであれば、厚くしていくべきではないかというご意見をいただいたところでございます。

施策の基本方向でございますが、これにつきましては市役所内部で意見がございまして、これまで基本構想を先に議決してそれに基づいて基本計画を策定するという法定の順番がございましたので、基本構想の中で施策の基本的な方向性を決めることが必要と一般にされておりました。ただ、それに基づいて基本計画を策定してまいりましたので、例えば、現行基本計画の 3、4 で示してあるような部分、施策展開の基本方向でありますとか分野別計画の部分と重複した記載にならざるを得ないところがあったと思っ

ておりまして、総合計画として見たときに重複感があるのでこれを整備して読みやすい構成にしたいという評価を市役所内部で思っているところでございます。

4 番の基本構想の推進でございますが、推進を担保する仕組み、実現に向けた新たな市民協働の仕組みや組織横断的なプロジェクト実施の仕組み等が必要だというご意見をいただいているところでございます。

現行基本計画については起草委員会の方のご意見というよりは庁内での現段階での評価をまとめたところでございますけれども、基本的考え方の中で、例えば夜間人口の人口フレームが現行計画と実数値がかなり乖離している状況がございますので、これについてきちんと見直す必要があるだろうと思っております。

2 番の都市空間形成の枠組みでございますが、現行のグランドデザインとして提示しているものは土地利用の基本方針ということで緑地を保全する等の方針を大きく出しておりますが、内容が簡潔すぎることで、道路交通や広域的な連携の視点が不足していること、中期・長期の目標設定が必要ではないかという意見が市役所内部でございます。この辺について検討しているところでございます。

3 番、4 番は先ほど重複感があると申し上げたところでございます。ここは重複感を取らなければならないと思っております。その他にご指摘ありましたように分野横断的な新しい切り口をどのようにしてもっていくか、重点プロジェクトではどうかというご意見をいただいております。

5 番の区別計画でございますが、細やかな地域情報に基づく地域政策が求められておりますので、区を主体につくり込んでいくにはどうすればいいかということを考えております。

都市経営のところでは新しい市民協働のシステム、行革を確実に実施したいと思っております。

このような課題認識に基づきまして、資料3 新総合計画の全体構成（素案）を考えてみました。

資料3をご覧ください。1 ページ2 枚のスライドとなっております。

基本的な考え方といたしましては、今までのご議論を反映することを重要視しております。五つ掲げられております。市民にわかりやすい表現・構成・内容とすること、

仙台らしさを基調として未来に希望をつなぐ視点を重視すること、「市民の力」を重視すること、4 つの都市像の方向性を踏襲し、かつ統合した上位の目標を設定すること、現行の基本構想・基本計画にある重複感を整理して、分野（組織）横断的視点を盛り込むことという五つを重視したいと考えております。

枠組み・スケジュールといたしましては、基本構想・基本計画につきまして審議会の答申を踏まえまして来年2月開催予定の第1回定例会に提案し、議決をもらいたいと考えているところでございます。

この下になります実施計画でございますが、この議決を踏まえまして年度末に策定していく予定でございます。

2 ページをご覧ください。基本構想の構成と骨子（案）でございます。これまでの議論を踏まえまして、一番始めの書き出しのところでございますが、未来へつなぐという

ことでございますので、仮に「仙台の未来へ」というタイトルで、今の基本構想は何々しなければならないという表現を基調としておりましたが、これを改めまして人口減少・低成長・地球環境の時代という全国的な各種の制約条件がある中で、仙台がその「資源」と「市民の力」で将来に希望をつなぐような未来志向の記述にしたいと考えております。基本構想が未来へ向かうものだということで厳しい時代でありながら未来志向をどのように表していけるかを考えたいと思っております。

2番目の「仙台の市民力～行動する市民力～」でございます。これが都市像と並べてやはり市の主体であります市民の知恵と力を合わせて未来を切り開いていくという姿勢をしっかりと示すことが大事だろうと考えております。

3番目の「仙台の将来目標」、「都市像」と呼んでいたところでございますが、わかりやすい表現として「将来目標」という表現でいかかと考えております。そして4つの将来目標を維持し統合した上位目標を設定したいと考えてございます。

4番目に「推進に向けて」ということで、基本計画全体の推進に向けた基本的な考え方を記載したいと思っております。

1番の「仙台の未来へ」ということで、上に書いたようなことでございますが、杜の都の恵みでありますとか、歴史と伝統、学都、都市機能、市民主導の文化・スポーツの取組、市民活動の積み重ね等が仙台の誇るべき資産としてあるだろうと。一方で仙台を取り巻く時代環境としまして、人口減少、温暖化対策の本格化、財政制約、そして仙台の場合には確実視されております宮城県沖地震にしっかり備えていかなければならない、いろいろな厳しい状況があるだろうと思っているところでございます。

3ページをご覧ください。「仙台の市民力」ということでございます。現行基本構想の基調といたしまして「市民主体の創造的な都市づくり」を掲げておりますが、このような基調をさらに発展させることが不可欠だと考えているところでございます。そのために重視すべき視点を示すことができないかと考えているところでございます。ただこの点につきましては、単独項目としておこすのがいいのか、推進等のところで適宜書き分けて、いろいろな部分に仙台の市民力を網羅的に記載していくのがいいのかについては庁内でも議論があるところでございます。

3番、「仙台の将来目標（１）」というところで、4つの都市像をこれまでご議論いただいてまいりましたけれども、上位の理念・目標を設定してみてもどうかということで、仮に現時点で考えている案でございます。「ひとが輝き 住み続けたい 杜の都」というものを考えてございます。この表現についてはなお練込みが必要と考えておりますが、杜の都という仙台を代表するフレーズが、杜という自然環境と都という都市機能の調和した仙台の街の個性を一番よく表している言葉なのではないかということがありまして、どういった杜の都を将来に向けて築いていくかが大事なのではないかとというのが庁内で行われている議論でございます。

4ページをご覧ください。3番、「仙台の将来目標（２）」でございます。これまでご議論いただきました4つの都市像の文言を修正したものでございます。これまで審議会でご議論いただいていた表現が（審）と書いてあるものでございます。これまでいろいろご意見をいただきましてそれに応じていろいろな要素を入れていくうちに長くなっ

てきているということがありまして、今回その要素をなるべく生かしながら簡潔なフレーズにできないかということで一応仮に、学びの都、共生の都、潤いの都、活力の都という四つの案文を考えてみたところでございます。これにつきましても今後練込みが必要であると考えております。

4 番、「推進に向けて」ということで、総合計画全体の推進にあたっての基本的な考え方を示したいと思っておりますが、基本計画で具体的な推進手法を検討してまいりますので、その検討を踏まえて整理してまいりたいと考えてございます。

5 ページをご覧ください。ここからが今回新しくお示しする新基本計画の構成と骨子の案でございます。

「1．計画のフレーム」、「2．計画の基本的考え方」、「3．分野別計画」、「4．区別計画」、「5．基本計画の推進」という現段階では五つの項目でいかがかと考えておりますが、これにつきましても今後議論をいただきまして構成から見直しをしていきたいと考えてございます。

1 番の計画のフレームにつきまして、下のスライドでございますが、計画期間につきましては従前から話しております来年 2011 年から 2020 年までの 10 年間を想定してございます。この中で人口フレームを出していきたいと考えておりまして、現行 21 プランでもかなり実数値と差が出ておりますので、最近の出生率の傾向や社会移動の傾向を勘案しながら適正な夜間人口、中枢都市ということでございますので昼間人口もきちんと把握しなければなりませんし、交流人口についても観光面を含めてこれからの都市活性化に不可欠でございますので、こういった点での方向性についても記述してまいりたいと考えておりまして、現在関係各局と調整を行っております。

6 ページをご覧ください。計画の基本的な考え方でございます。基本計画の特色でありますとかこの計画期間で目指すべき重点的な政策目標等についてお示したいと考えております。現在各局の個別計画の検討が進んできておりますので、そちらで示される政策目標等を踏まえ引き続き検討したいと思っております。横断的な視点に基づく対応ですとか市民の皆様にはわかりやすい具体的な数値目標の設定についても検討してまいりたいと思っております。それに加えまして委員会でも何度もご議論いただいております分野（組織）横断的なプロジェクトを円滑に市民と協働で進めていくためにどうしたらいいかということで、まず重点プロジェクトを設定しそれについて新しい運用管理をすべきではないかとご議論をいただいておりますので、その手法についても検討してまいりたいと考えております。

3 番の分野別計画（1）でございます。基本的な考え方といたしまして政策分野ごとの動向・課題と施策体系をつくりたいと思っております、それに応じて基本目標と基本的な施策を体系として並べたいと思っております。これにつきましてはわかりやすい説明、分野間のボリュームといいますか政策バランスを考慮して設定したいと思っております。

7 ページをご覧ください。今のような視点、わかりやすさとバランスの視点に基づきまして庁内で議論をいたしまして、今のところ二つの政策分野の設定ではいかがかと考えているところでございます。現行の基本計画におきましては4つの都市像に応じて四

つの政策体系があるというような形、目標に対してその施策体系が1対1対応するという形で、そういう意味では目標とそのための手段ということがパラレルでございましたのでわかりやすかったと思います。ただ、市民から見てそれがわかりやすいのかについてはどうだろうというご意見がありました。市役所内部で検討いたしまして二つの視点で設定してみてもどうかということで現在検討しているところでございます。一つが市民一人一人の「暮らし」と生活の場である「地域」に着目した「市民の暮らし」を向上させる政策分野で、この中に子供から高齢者までのライフステージ、地域の安全・安心というものも入れてはどうかということでございます。

もう一つが「都市の魅力」を高める政策分野で、杜の都の環境、各種都市機能、観光、イベント、広域連携、国際交流等を入れる一人一人の暮らしと都市全体というフォーカスをぎゅっと絞ったものと全体を俯瞰するような一つの政策運用体系の方が市民の皆様にとってわかりやすいのではないかと考えて今回仮にご提案しているところでございます。

4番、区別計画でございます。区別計画といたしましては各区が主体となって地域住民のご意見やニーズを踏まえながら策定してまいりたいと考えております。これについてはいろいろな進め方があるのかと思いますが、現在のところ審議会でご了解がいただければ各区で素案を調整いたしましてそれを審議会にご報告し、ご了解がいただければ答申に内包する手続きを取りたいと思っているところでございます。

最後8ページをご覧ください。基本計画の推進でございます。ここにつきましてはこれまで起草委員会でも何度もご議論いただいております新たな市民協働のあり方ですとか、庁内横断的な取組について、重点プロジェクト等を活用してしっかり取り組む体制をつくりたいと思っております。その他に行財政改革を着実に推進し、基本計画自体を計画的に実施していくための仕組み等を想定しております。これにつきましては現行計画でも既に設定されておりますが、ここで新しい取組等をしっかり書き込めるのであればむしろこれを上に上げて全体の構成を見直してはどうかという意見も市役所の中では出ているところでございます。構成を含めまして引き続き内容を検討しましてできるだけ早い段階で案を示していければと思っているところでございます。

最後に実施計画でございますが、総合計画審議会の答申をいただきましたのちに議決を経て市役所で取り組むアクションプランでございます。3年を基本に計画いたしております。財政的裏付けを含めながら具体的に着実に実施できるように精査してまいりたいと考えているところでございます。

資料の説明につきましては以上でございます。

大滝精一委員長

どうもありがとうございました。資料2、資料3に基づきましてご説明いただきました。これからの意見交換は主に資料3を中心にご意見いただきたいと思います。けれども、今のご説明でもおわかりのとおり、この資料3自体が最初の総合計画全体の構成から基本構想と骨子に当たる部分と、5ページからはこれまで公式的には議論してこなかった基本計画の構成と骨子ということで、起草委員会としてはこれまで議論してこ



なかった新しい提案が盛り込まれている部分です。時間の関係もありますので最初に前半の私たちがこれまで議論してきた基本構想を中心とした総合計画の全体構成と基本構想の構成と骨子について最初にご意見いただいて、その後新たにご提案いただいた基本計画の構成と骨子についてご意見いただく形で進めてまいりたいと思います。後半については実質的に起草委員会で議論するのは初めてなので、少しこちらに時間をかけた方がいいのかなと私としては思っていますけれども、ご意見いただきたいと思っております。

最初の１ページから４ページについてご意見いただきたいと思っておりますけれども、先ほどご説明のありました３ページの「２．仙台の市民力」については、全体の基本構想の構成と骨子（案）では２ページの上のスライドにありましたように「２．仙台の市民力」という形で記載することになっているのですけれども、庁内でもいろいろな議論があったということですが、具体的にどのような議論があって仙台の市民力の扱い方についてどのような話があったかももう少し詳しくお話いただけますか。

#### 梅内総合計画課長

庁内でありました主な議論といたしましては、仙台が、これまでも市民の皆様と各種事業を行ったり、市民主導の代表するような大きなイベントがあったりというまちでございますので、そういったものを将来目標の実現に生かしていくためにどうすればいいかという視点が重要だということに関しては庁内でももちろん合意があるところでございますが、具体的にこれを基本構想に一つ項目立てして書くのか、優れた仙台の市民力と一緒に基本構想、基本計画を実現していくということで、推進に向けてという項目が基本構想でいきますと４ページにございますが、この中に書き込んでいくこととして、一つ項目立てをするよりは仙台の非常に優れた市民力と共に基本構想、基本計画を着実に進めるのだという記載の方がわかりやすいのではないかと。都市像といいますか都市の将来目標と並んで市民力というのがあるときに、構成的な位置づけとしてほんの一つ項目としてあるというのがわかりにくいのではないかという意見が市役所の中でありました。

#### 大滝精一委員長

ありがとうございます。この辺りから少しご意見いただきたいと思います。市民力云々等については起草委員会でも随分議論があって、いろいろなご意見をいただいておりますけれども、今回出てきた素案では項目２に「仙台の市民力」として切り出すという形で、ここに書いてあるようなことをしっかりと書き込むと出ているんですけれども、もう少し違う扱い方もあり得るかもしれないというような議論もあるということで、この扱い方とかあるいはここに仙台の市民力を位置づけることについて少しご意見いただきたいと思います。

#### 小松洋吉委員

私も確たる自信があるわけでは決してありませんが、前にも発言したと思うのですけ

れども、基本的にやっぱり市民のニーズが多様化する、プラス化する中で市民が自分たちの生活の問題、地域の問題、自分たちの力で解決するエネルギーを結集するということは私は基本的にあっているのではないかなと思うんですけども。私個人は、自発と自治の時代、自分たちの問題を自発的に自分たちで解決していくのがベースにあるのではないかと、自助共助というところがベースになるのではないかと考えております。そういう観点からすると2ページの上のスライドの「仙台の市民力」というのを一つ出すということは適切じゃないかと。7ページにも市民一人一人の「暮らし」と生活の場である「地域」に着目とありますので、その点とも整合性はとれるのではないかなという感想を持っています。

この間の審議会の時に私自身混乱したのが「都市像」と「市民像」ですね。「市民像」としては自分たちでできる限りやっていくというのが一つあっているのではないかと思います。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

柳井雅也委員

市民力のこのところは入れることは私も賛成ですけども、もう少し仙台らしさというのを強調するために、行動というところで留めるのではなくてむしろ解決してきた、実現してきたという視点をもう少し明確に意識して仙台の市民力というものをとらえなおした方がいいと思いますね。例えば、スパイクタイヤの問題にしてもそうですし、市民のマグマの様な祭りとか文化をつくっていく力という創造力もありますよね。それを実際に実現してきた、実績を持っているということを強調するために、もう少し実現力とかソリューションを強調した方が仙台の市民力というのが発揮してくるのだと思います。他の都市でもただ取り組むだけだったらやっていますよね。その違いを出していっていかないとしょうね。

大滝精一委員長

ありがとうございました。

今3ページの「2．仙台の市民力」という話と4ページの一番下にありました「4．推進に向けて」というところで基本計画の推進の手法という話が出てくるんですけども、この間の関係性みたいなところも少し意識しておいたほうがよいのではないかなという気がいたしますね。仙台の市民力を評価するという話も大事な話だと思いますが、起草委員会でも出ているように市民力を鍛えるとか市民力を伸ばすとか市民力を成長させるというファクターもやはり大きな取組として入れておくことが大事なので、仙台の持っている資産とか蓄積とか創造力という面での市民力に評価とプライドを与えるという面と、新しいものをつくっていく意味でいうと市民力自体を高めていくとか伸ばしていくという面をどこかには入れておいたほうがいいと思います。仙台の市民力という第2の部分と第4の推進に向けての部分については少しいろいろなことを考えた方がいいの

かなと思います。その辺りも含めて他の委員の皆様からも、仙台の市民力とはどのような位置づけ、特に基本構想の中でどんな位置づけにしたらいいかご意見があればお願いいたします。

#### 間庭洋委員

今、お話があったとおりだと思います。こういう位置づけは是非したいなと思いますし、最後に大滝委員長がおっしゃった３ページの「２．仙台の市民力」の中に重視すべき視点（案）というのが三つほど書かれてありますけれども、今の仙台の市民力をどのように、これまでの誇りを資源を生かしていくかという未来志向的なものと同時に、永続的に市民力を養ってはぐくんでいくというのが同時にここに内在しているという意味にとらえれば非常にいいことだなと思いました。

それからキーワードの様な形で意識しておきたいのは前にも発言したのですが、「２．仙台の市民力」の中に仙台市民の例示がいくつかありますね、７ページにライフステージという話もありましたが、ここには人ということと同時に階層といいますか暮らす人、働く人、学ぶ人、企業・団体・NPOというジャンルがいろいろな切り口でとらえられていることもいいことだと思うのですが、加えて永続的に市民力を養いはぐくむという視点からすると子供ということをも市民力のところにしっかり位置づけを、子供は小さい子供だけでなく青少年も含めてですが、位置づけておくという姿勢を強く示すという意味では必要なキーワードではないかなと。もちろん年長者のことも同様であるのですが働き盛りの人たちだけではないということをしかり意識してキーワードとしてここに盛り込んでおくことが伝わりやすいメッセージになるのではないかと思います。全体としてはこのような整理で賛成です。

#### 大滝精一委員長

ありがとうございました。どうぞ、西大立目委員。

#### 西大立目祥子委員

２番目に仙台の市民力がくるということについて事務局にお尋ねしたいのですが、現行の基本構想は最初に策定の趣旨があって次に都市像がきていますけれども、それより先に市民についての記載が入るということで理解してよろしいですか。

#### 山内企画調整局長

これは目次で四つまとめておりますけれども、大きな要素としてこれまでの議論を踏まえると市民力という要素はやはり強く打ち出すべきであろうというまとめでございまして、先ほど総合計画課長からお話しましたように項目立てとして市民力というものを将来目標の前にとということについては、将来的にはいろいろと議論がございます。委員長からもお話ありましたように推進をどう組むかという部分が大きな課題としてございまして、今の基本構想の中でも推進としては市民主体の都市経営、創造的な都市経営、計画的推進の三つの枠組みで拾っております、最初の仙台の未来へという部分で、先

ほどもお話ありましたが市民力これまでの活動してきた部分の記述はこちらの方に入れて、重視すべき視点なんかもそういうところで拾っておいて、後は推進の部分で市民力をさらに生かすという仕組みを構築したほうが体系的にはわかりやすいという意見は多いです。四つの形というよりは要素としての認識でございます。

#### 西大立目祥子委員

わかりました。市民力についてはもっと鍛えるとか育てるとか必要ですけども、市民力を評価し、推進力として生かしていくというところでは、協働の中身についても、市民力については記載があった方がいいと思います。ただ評価を出すということではなくて、お役所とどのように組んでいくかは必要になるのではないかと思います。

#### 柳井雅也委員

恐らく協働の組み方は2種類あると思います。今度の計画が外にアピールする一番のポイントは市民力だと認識しているのですけれども、その時に今までのように市役所がリーダーシップを発揮して、そこに市民を加えて議論していくやり方が一つの方法としてあると思います。もう一つはイコールパートナーとしてワンオブゼムとして入っていくというやり方がありますよね。そこに対して市役所がどういった支援体制を組めるのかあるいは組織を組めるのか、そこをもう少し議論しておく必要があると思います。そこが明示されていないと何でもかんでも市がリードしなくてはいけないと議論が錯綜してくると思いますので、そこはきっちり二つの考え方があると示しておいた方がいいのではないかと思います。

#### 小野田泰明委員

先生方の話を聞きながら整理してみましたけれども、やはり今回仙台の市民力というのは今までと一体何が違うのかを明確に提示すべきだと思います。

一番目が従来型の地方自治で市民は住民であり、住民は住民自治の基本的な権利があるというのがまず第1段階です。

第2段階はニューパブリックマネジメント（NPM）で、グローバル経済が進んでくるとなかなかそう権利だけではなくてマーケットとどう距離をおくかが大事になってくるので、NPMでは市民はサービスの顧客であり税金を納める顧客であるという定義がなされています。それが権利その2です。

今回の3番目の市民力というのは、従来型の地方自治でもNPMでもない3番目の位置づけとして市民をどう定義するかがみそになってくると思っていて、住民と顧客のように明確に表す言葉が見つかりませんが、今のところ自立的な当事者であるという、むしろ権利ではなくなってくるわけです。自立的当事者として市民を位置づけますということだと思います。そのときにまず問題になってくるのが、先ほど西大立目さんからお話があったように従来型は市民の権利をどう保全するかという仕組みを行政が持っており、若しくはマーケットという仕組みを使ってプレイヤーとしての権利をどう保護するかその仕組みのプラットフォームがありました。だけど、自立的当事者として行政

の中に位置づけるというのは、言うのは簡単だけど新しい仕組みが必要でそれを同時に提示しなくてははいけません。仕組みの中身は二つあって、一つはエンフォースメント。今まで行政が議会を通じて自分たちの権利でやっていたものを、市民が自立的に自分たちでどうぞやってくださいとすることです。その代わりそれに必要な経費は、今まで直接サービス支給していましたがお支払いしますという、名古屋でやっているのに近いような、あの仕組みだけではないけどいろいろなことでエンフォースメントをしていかなければいけません。そのエンフォースメントと裏表になっているのが、ただエンフォースメントするだけでは質が担保できないということです。行政が直接実施する場合に比べていろいろなレベルがあり、うまくできるときもあれば、全然うまくできないかもしれません。その時に責任をどうするのかという話が必ず出ますので、それをきちんとモニタリングしてフィードバックする仕組みがないといけなないので、エンフォースメントとモニタリングという仕組みをきちんと持つということがまず必要です。もう一つは既存の議会があって行政があって意思決定を行うという代議員制を採っておりますが、代議員制と並行する形で自立的当事者が登場するから、それを代議員制とどう調整していくかという意思決定上の仕組みが必要になってきます。これを大上段に掲げるとそんな簡単に調整できないのですが、裏のテーマとして行政はそのことをまず認識しておく必要があるのではないかと思います。歴史的な展開を追いながら明確に定義して、これは必要だということを基本計画には書けないかもしれませんが、行政としては到達すべき目標として明確にすべきだと思います。

この基本構想の書き方として、その次の将来目標の四つ、4 ページ目の3の からまでにどうつなげていくかを考えると、一つ目は自立的当事者というときに市民力を鍛えるとか市民力を伸ばすとか、なかなか言いにくいですが、今まで権利があって保護される対象であった市民が自立的に活動することになると、能力を涵養し可能性を切り開いていかななくてはならなくなり、 の「未来を育み創造する学びの都」という機能が必要になってきます。次に能力を開花させるために市民参加ばかりやっていて大丈夫かとか、自分の生活ができないのにそんなことやっていて大丈夫かとか、そんなことより自分の老後の方が心配だという話が必ず出てきますので、そういうことを一生懸命にやっても皆さんの基本的なところは考えています、環境、安心のセーフティネットはきちんとありますということで、 の「支え合う健やかな共生の都」が必要になってきます。その能力の涵養とセーフティネットの二つは基本だと思いますけど、その二つだけで自立的に市民が動くかということそうではなくて、やはり何か目標というかドライビングフォースというか、それが仙台市民として再生されていくような方向性が必要だと思います。それを明確に生きがいとかプライドとかお金とかいろいろありますが、仙台の独自性と、オリジナリティでありアイデンティティということになればその基盤としての、都市仙台というものがアイデンティティの基盤になりますというのがドライビングフォースだと言えると思います。その三つでいいかということ、残る4番目は仙台で自立してそこだけで動いているわけではないので、対グローバルとか対マーケットにそれを発信していったりつないでいったりインターフェイスをきちんとつくっていかないといけないと考えると、 の「東北を支え広く交流する活力の都」というテーマが出てきます。

以上この四つで自立的当事者である市民をきっちり支えていくことが可能になるという書き方ができてきれいな気がします。

問題はここに明確に書けない仕組みづくり、この戦略を基本計画なのか裏基本計画になるのかわかりませんが、その辺りをどの辺まで担保できるのかということが、この計画が実のあるものになるのかそれとも絵に描いた餅になるのかという分かれ目ではないかという感想を持ちました。

大滝精一委員長

ありがとうございました。今、西大立目先生、小野田先生お二人からいただいたご意見は非常に重要だと思います。一つはどう書き込むかは別としても、協働の中身、協働を実際に前に進めていくやり方とか手法とか方法、そして、そのベースになっている基本的な考え方、そういうものが市民力とセットになっていないとただ市民力を高めましょうという話だけではいけないのではないかということが論点だと思います。ですからそこをどう表現するかというのがこれから検討していくことだと思います。

小野田先生から市民力をスタートして将来目標の話がなされましたので、将来目標（１）のところで４つの将来目標のさらに上位目標という形で「ひとが輝き 住み続けたい 杜の都」という案を提示していただいております。将来目標（２）については小野田先生よりお話をいただきましたが、私たちが審議会で議論したことに比べると４つの目標という形でコンパクトに集約しているんですけれども、この辺りの仙台の将来目標のまとめ方についても合わせてご意見いただきたいと思います。特に将来目標（１）については今回初めて上のところに４つの目標を統合する形で案が出てきたのですが、さらに上位の理念・目標の中でもしそういうものを設定するとすればどんなことが必要なのかとか、どんなメッセージが意味のある重要なものになるのかということもご意見いただいた方がいいかなと思います。

柳井雅也委員

すみません、用語なんですけれども。心配なので確認だけなのですが、この杜の都の「杜」は木偏に土ですよ。今あるのかどうか、街路樹はあるんですけども本当に杜ってあるのだろうか、その表記を使ってよいのかどうか確認しておきたいと思います。

梅内総合計画課長

元々使われていた屋敷林のようなものは随分なくなって残り少ないのですが、現在ですと多くの方がイメージされるのは並木でありますとか市街地に隣接した青葉山を始めとする自然林のようなものかと思います。杜の都というのも当初名前がついた時のものとは要素が変わってきていますが、自然的な森だけではなくて人の手が加わって人がつくってきた樹木を含めた自然環境という意味での杜、そのようなものと都市機能が調和している街という、昔使っていた用語とは随分変わっていると思いますが、現在、広瀬川の清流を守る条例でありますとかスパイクタイヤでありますとかいろいろな市民との協働で都市環境をつくってきた街ということも念頭にありまして、そういう要素も含め

る用語として「杜」という使い方が仙台にふさわしいのではないかというのが市役所の中で多く聞かれる意見です。

柳井雅也委員

わかりました。最低限にして使っていただきたいですね。

大滝精一委員長

よろしいですか。

庭野賀津子委員

都市像を将来目標に変更したということですが、都市像を将来目標に置き換えるというのは、起草委員会で既に議論されたことだったのでしょうか。欠席した日もありましたのでわからないのですが。

大滝精一委員長

それは今回の提案です。この中で私たちが決めた話ではないです。

庭野賀津子委員

わかりました。疑問に思いましたのは都市像という言葉と将来目標という言葉がもし並列の立場にあるのであれば置き換え可能だと思いますが、意味合いが随分違うのではないかと思います。都市像といえばやはりビジョンを示すものであり、今現在の姿を含めて今後どうありたいかというビジョンになっていると思うのですけれども、将来目標といういい方をしてしまうと随分先の話みたいなイメージがありますし、目標という言葉を使うのであればもう少し具体性が必要となってくるのですが、ここでは具体的なことをいうところではなく、未来をはぐくむ、支え合うという象徴的な言葉でまずは示して、それを基にこれから具体的なものをつくっていくという位置づけの部分だと思うんですね。将来目標としてしまうとその言葉にあった内容としてもっと具体的なものをもってこないといけなくなりますので、ここはもっと大きなビジョンを示す言葉で都市像、若しくは都市像に替わる言葉を考えた方がいいと思いましたが、ここで目標とした理由をご説明いただければと思います。

大滝精一委員長

お願いします。

山内企画調整局長

これまでの起草委員会で議論はなかったかもしれませんが、審議会の中で都市像という言葉自体が今の時代、感覚からして市民にわかりやすいのかというご意見はあったと受け止めておりまして、庁内的にもそういうこともわかるという認識の基に、同じ概念という認識で将来目標と置き換えただけでございます。ビジョンを示すべきとのお話で

すが、これまでの基本構想は 21 世紀中葉を展望した都市の目標という位置づけでございましたし、その前までは基本計画と同じ計画年次での都市の目標ということで位置づけられておまして、定義としては都市像が将来目標に替わったとしても支障はないかなと思っております。違和感があるのであればご議論いただければと思います。

庭野賀津子委員

ここにもってくる言葉としては違和感があるのかなと思います。今後検討していただけるといいと思います。

大滝精一委員長

今の将来目標についてももしご意見があればお願いします。

小松洋吉委員

これは難しいですね。両方の言い分はわかりますけどね。表現はどうするかとなるとちょっと出てこないなあ。

庭野賀津子委員

やはりここは理念を語る場であると思うんですね。理念と目標がここで一緒になるのはちょっと。目標はもちろん必要なんですけども、まずここでは理念をあげないといけない。理念を示す言葉を持ってこないといけないと思うのですが、今替わる言葉がすぐに思いつかないんですけども、何か都市像とか都市ビジョンのような言葉があるといいなと思います。

大滝精一委員長

どうぞお願いします。

江成敬次郎委員

仙台の市民力をどう位置づけるか、取り上げ方として推進に向けての中に入れられるのではないかという意見がありましたが、市民力そのものを単なる動力として位置づけるのではなくてこれから発展させるべき一つの課題として市民力というものがある、市民力を強める必要があるし市民力を発展させていく必要がある、それによって仙台の発展があるという視点から 1 項目起こすことが必要ではないかと感じております。4 つの都市像とのかかわりですが、前回の審議会で私が印象に残っているのは、どの都市でも同じ様な書き方との印象があるという意見がいくつか出されまして、それに対してどう解決していけばいいか、将来目標にしても都市像にしてももう少し仙台にかかわる言葉を使って出していくことが必要ではないかと思えます。特に私自身のかかわりの深いところで、環境とのかかわりで「自然と調和し持続可能な潤いの都」と書かれていますが、これだとまさにどこの都市にいても通用することになります。仙台とのかかわりで述べていくことが必要だと思います。例えば、自然と調和しという言い方の中で、奥羽山



脈とか杜の都という言い方もできるし、地域と結びつくような単語を使って目標を設定したり都市像を記述したりすることが必要だと思います。私は都市像の方が特徴があっていいと思うのですが、わかりにくいということであれば、将来目標の方がわかりやすい言葉なのであればそれでいいと思います。具体的な都市像の書き方のところで仙台に結びつくような言葉、書き方をすることが必要だと思います。

#### 大滝精一委員長

ありがとうございました。基本構想についてはこれくらいにして先に進みたいと思います。会議の終わりの方で振り返って基本構想についてご意見をいただくことにしたいと思います。基本計画についてある程度方向性を定めて今度の審議会に提案することも必要ですので、ざっと見ておき、皆様からご意見をいただきたいと思います。

基本計画については5ページにある基本計画の構成と骨子(案)がありまして、事務局からご説明がありましたように大きな論点としては6ページの頭のところの「計画の基本的な考え方」があり、特に基本計画の特色とか重点政策目標についてどう考えるか一つの論点だと思います。7ページのところは四つの目標なり都市像があったわけですが、さらにそのところを「市民の暮らし」と「都市の魅力」の二つにブレイクダウンしているわけで、このような仕方が良いかどうか。区別の計画については当面区で取りまとめをして最終的に審議会にかけて区別計画を取り込むという仕方で対応していこうという提案があるのですが、これが本当にいいかどうかですね。8ページの最後のところで「基本計画の推進」の部分についてはこのようなことを目玉として考えているところですけども、これで良いかどうか。推進の部分は5番目で一番後ろにきていますが、こんなに後ろにきて良いのか。基本計画の最初の方に推進の視点をもっと入れた方が良いのではという意見が庁内でもあったとお話がありましたので、この位置で良いかどうかいろいろな論点があると思います。基本計画の構成ですとか今日初めて議論がいくつか出てきていますのでこの辺りを中心にご意見いただきたいと思います。

#### 西大立目祥子委員

基本計画のフレームは人口についてはなるべく悪い方を探っていただきたいをお願いをしておきたいです。

人口減少を含め誰も経験したことのない時代に対応していく基本構想ということを考えると、今までの分野別計画はそれとして、横断的なものをどのように盛り込んで、それを上位のものとしてアピールしていくことがとても大切なことだと思います。分野横断的な重点プロジェクト設定が検討にとどまっていて、具体的には分野別計画の位置づけになってしまっているところが大変気になります。分野別計画はソフト的な市民の暮らしに密着したところと、もうちょっと大きく都市計画的なものを考えるところと、二つになっていますけれども、ここをどのように横断的に、むしろとをどういうふうと一緒にプロジェクトとして立ち上げるかというのが基本計画で一番大事なところではないかと思います。もう少し計画の書き方を検討していきたいし、恐らく具体的にお仕事なさる市役所の方達にとってはすごいハードルだと思いますが、あえてそれを設定

していただきたいなと思います。

大滝精一委員長

今の横断的な話とか、分野別計画と横断的な話の間の関連性とか、それぞれ全体の構成の中でどう位置づけを考えたらいいのかという話とか、今度の新しい基本計画ではかなり重要な意見だと思います。この辺を中心に他の皆様からのご意見いただければと思います。

小松洋吉委員

今のお話は行政改革ともつながってくるんですね。できる限り制約もあるでしょうけれども、指摘された方向で考えることができれば大きく前進するのではないかなと思います。いろいろ難しい側面もあるとは思いますが。できたら強いアピールになるのではと思います。今の点は今後最重要なところかもしれないなとお聴きいたしました。

山内企画調整局長

今の点についてはこれまでも審議会や起草委員会でお話いただいている点でございます。行政としましても当然そういった横断的な視点で、いろいろ組織についても横断的に考える必要があるとの認識は全く同じでございます。ただ、それを政策体系としてどのように組むかについては行政内部ではいろいろな異論もございます。というのは縦割り、横断的というけれども具体的にはすべての政策を体系化する必要があるわけでございます。その場合どういった責任のもとに体系化するかという部分と、機能的にどのようにみるか見方がいろいろあるのですがそれをどう組むかというのは個別具体におろしてみないと、横断的な構築はできるか、抜け落ちることなく政策体系がつかれるか、両面の課題がありまして、今より具体的に政策として分野全体を拾った場合どういう内容があるか、横断的に特に重視していく部分はどのようなものがあるかなど、両にらみで詰めていかないと具体的にはみえてこないというのが行政内部での多数意見でございます。その作業を並行でさせていただきながら審議会や起草委員会のご意見をできるだけ反映した形にまとめていければと思っております。

柳井雅也委員

基本計画5番目にきているんですけども、今回我々のアピールしていくポイントはやはり市民力ということになりますので、これは前の方にもっていくのがいいと思います。一番我々にとって訴えたい部分を前に出していくということですね。もう一つは現在の縦割り行政でも関係部局での調整はされていますよね。予算面でのすり合わせみたいなことをやっていますよね。ただ、私たちが目指している横断というのはそれに留まらず市民目線でどういうソリューションができるのかということになってくるわけです。プロジェクトの中にはプロジェクトベースで期間限定のプロジェクトになっていく可能性もあるし、持続的にずっとしていくプロジェクトも出てくると思うんですね。その辺りを整理していただいて市民目線からできるものについては前の方に極力もってき

て強調していくと。例えば、商店街の活性化なんかですと、ハードの整備をしようすると道路とか公園とか折衝しないといけないんですね。予算があるとかないとか別のプロジェクトで整理するとかすり合わせがあると思うのですが、これについては後ろの方でも別にかまわなくて、これを例えば横断ととらえてしまうと我々が議論してきた横断とちょっと違うのかなという感じがします。うまく切り分けをできたものについては前にもっていくということが大事なのかなと思います。

#### 大滝精一委員長

今のお話と関係あるのですが、ある程度先が見通せてインクリメンタルでいろいろなことをやっていけるという点で言えば今の行政の組織でもいろいろなことができるんじゃないかと思っているんですね。ところが人口減少のように、相当大的な変化があるところでどーんと起こってきて、それをあらかじめ予測を立ててそのとおりやっていけばうまくいくという対応ができなくなってきているという問題がいくつか出て来ていることを見据えた上でどういう取組をしていったらいいか、そのためには先ほどの議論があるように、市民の側でも何かもう始めていかないと手遅れになってしまって、後で気づいたときには行政だけががんばっていましたがみたいな話になっていく。だからそういう意味で問題のセレクトの仕方とか何を横断的なものとして取り上げるかとかそのようなスタンスをしっかりと持っていたほうがいいと思うんですね。何でもかんでも行政ではできないといっているのではなくて、縦割りの中でそれぞれやれることはたくさんあると思っています。でもそこだけではかなり大きな何らかのこれまでの大きな断絶がくる、次の10年くらいの間にそれがかなりはっきりきそうな感じがあって、そこをどういうふうにみていくのかということは今からやっていかないと、後が随分悲惨なことになってくるんじゃないかと。庁内の中でもそういう意識はあると思いますし私たちもそういう意識はもっているのです。そのところがこれまでの基本計画の取組とかなり質的にも量的にも違うのではないかという意識をうまく共有できればいろいろなことが進められるのではないかと私は思いますね。

#### 西大立目祥子委員

区別計画のところの各区が主体というのは大変いいと思いますし、エリアをどういうふうにとらえるかという時に、町内会が隣り合っている同士でも全く違う要素がたくさんあると思うので、間に合うかどうかわかりませんが、区別計画を立てる前に少し丁寧な聴き取り調査をそれぞれの区毎にやるとか、区別で委員会をつくってもいいと思いますし、市民参加型でこういうものを決めていければいいかなと思います。その区別計画がもっと上位にある基本計画とうまく連携していかないことには、本当の意味での豊かさというか満足できる住み続けたい杜の都にはならないと思いますので、区からあげたものをこちらの中でどのように次の課題として取り上げていくかというのはとても重要なことだと思います。

#### 大滝精一委員長

はい。ありがとうございます。既に区別計画についてはある程度動き始めているのですか。今の話も含めて区の中で実際何が起きているのか、その課題は何かとかそういうことについてはある程度動き始めているのですか。

#### 山内企画調整局長

私も去年太白区長でありまして地域特性というものを現状分析して、地域のそれぞれの担い手の意見を聞きながら協働で課題を洗い出してあるべき姿にもっていこうという、市長もそのような考えでございまして、それに基づいていろいろな地域政策の拡充に向けた検討は昨年度から進めております。それに基づいて地域の方についてもいろいろと分析はしております。ただ、総合計画自体は今年度内に策定するというスケジュールもございますので、そういった中でどの程度のものがつくれるのかある程度制約もございますけれども、今後に向けてさらにできたらそれで終わりというものではないですから、地域協働でやっていけるような仕組みでやっていけたらと思います。

#### 大滝精一委員長

ありがとうございます。それ以外のご意見でも結構ですので、どうぞご自由にご意見いただきたいと思います。

#### 柳井雅也委員

区別計画についてですが、去年その前の年に商工会の関係で泉中央駅のベデストリアンデッキで、確かに主体的な区の方も応援していただいてやりましょうということだったんですが、実際に動かそうと思ったらそこは道路扱いだということで店は出せない、イベントは開けない、やってもお祭りの時にしかできないということで、一方で産業政策で地域を活性化させましょうという議論をやっているのに、実際動いたらいろいろな規制で動かなくなってしまったのですよ。区別計画を主体というふうに書かれていても、全然主体性のがんじがらめになっていて、やれる主体も領域がすごく狭いんですね。そういった人たちの市民力をずっと引き上げていくというのが今度の計画の最大のセールスポイントですよ。例えば、そういったときに調整的な役割とか、支援を特区構想みたいな経済産業省がやっているものを仙台市独自で特区指定という形でデッキを開放してあげたりするとか、難しければ期間限定で長くやってあげるとかそういう支援体制というのをどこかに入れておかないと市民の力というのはなかなか引き出せないのかなと現実的にあると思います。産業活動についてそれはすごく感じております。

間庭委員の方がその辺はお詳しいかと思いますがご意見あればいただきたいと思いますが、そういった事があるとう理解いただきたいと思います。

#### 間庭洋委員

計画のフレームというのが5ページにあり、ここの中に含まれていることだと思うのですが、人口フレームというのは上等のフレームだとは思いますが、最近の相当変化が激しいというもののものではっきりわかっているものでは環境ですね、これもある意味で

CO<sub>2</sub>などフレームとして意識しておかないといけないような要素があって、これは環境局ではなくて横断的で全市全庁的なものなんです、人口と同様に。そのようなものの中に入っているかもしれませんが、これから 10 年間歩もうとしたときにそのことを数値なり目標を意識しておかないといけないものはこの計画のフレームワークにしっかり位置づけておいて、いかに臨んでいくという。例えば、6 ページの重点政策をいかに臨んでいくということをやっていくことで横断的な話もそこで展開できるのかなと思います。

今、柳井先生がおっしゃったようなことは市民力と行政その他との関係で必ず出てくる論議されることですが、いろいろな解決方法あると思いますので、市民力がより促進されやすいということについて何らかの記述があればいいのかなと思います。

大滝精一委員長

これまで余り議論がなかったのは 7 ページの分野別計画中の ( 2 ) ですが、こういうふうな市民の暮らしと都市の魅力という形で二つの政策分野を設定していることについてはいかがでしょうか。この二つに分けているというのは大きな理由は市民にとってわかりやすいということなんですけれども。

間庭洋委員

「市民の暮らしの向上」という概念が一様でないだけに難しいですね。質の問題だと思うのですが、それこそ行政の役割と市民の主体的なものと二つが相まってないといけないことですからね。

大滝精一委員長

特に市民の暮らしの向上ということ自体が内容として何を含んでいるかちょっとわかりにくいということですかね。

間庭洋委員

目標を設定できるものがあるんですね、そういう側面から推進のテーマに掲げるものをいくつかあげることはいいいことだと思います。

柳井雅也委員

代案みたいなものはないのですが、人口フレームに大きく規定されてくる産業経済の変化というものがあると思うのですが、この二つの分類で結局対応できるかどうかということを議論しなくてはいけないので、これだけで分類というのはいいいかなってあると思うし、余り形式的にしか分けられないとも思いますね。どの部分で大きく響いてくるのかというところを独立させて一つの項目立てしていくというのが通常の方ではないかと思いますが、例えば、都市の魅力だったらハード整備と経済的側面を分けた方がいいこともありうると思います。そうすると三つ立てになりますよね。横断と考えるとそれはしないほうがいいと思うのでその辺りが議論のポイントになってくるのではないかと思います。

白川総合政策部参事

ここの部分の分野別の二つの政策分野の分け方なのですが、従来ですと都市像の四つの柱に沿って政策の体系をつくってきたのを少し横断的な視線を盛り込みたいという目的で新しく組み直したいと思ったのが第一点です。そのために実際にはこの二つに分かれても、どちらかという未来を育み創造する学びの都といった視点は「市民の暮らし」というところに大きく入ってくる部分が多いと思います。支え合う健やかな共生の都という分野に政策都市像から分類される部分についても「市民の暮らし」に入ってくる部分が多いと思います。残りの潤いの都、活力の都という部分については「都市の魅力」の中に交通などの骨格的なことや環境的なことがありますので、この部分に分類されるものが多いと思います。そうすると、役所は縦割りの中で縦割りごとにしっかりと施策をやっていくという基本のベースの部分がありますので、その部分はこれまでの縦割りに沿った形で施策を体系化できます。ただし、横に見ていかなければならない実際の市民の暮らしというのを否が応でも見ていかなければなりません。

それからもう一点は と が分断されるところにこそ横割りの視点が必要ではないかと先ほど西大立目委員からご指摘があったのですけれども、まさにそのとおりで、この二つに分けることによって高齢者の暮らしを地域で保障していかななくてはならないなんていうのは比較的これまででも考えやすかったのですけれども、そこにいかに日常的な買物を保障するための交通体系とか産業の話とかを結びつけていくかということが足りないということがより明確になるのではないかという視点から、そういう部分を考えるためにも施策の体系はこういう形で考えていき、より明確になった問題点のある横断的に考えていかなければならない部分について、別な形で重点プロジェクトとか重点政策という形でチョイスしやすくなるのではないかという視点で分けてみたということです。決してこれだけですべて分けられるとは考えてないのですけれども、どういう形かに分けないと施策が体系化できないものですから、その時には最終的な横断的なものを選び出すための方法としてこういう形が一つの案としていいのではないかといいところをつくってみたところです。

大滝精一委員長

はい。ありがとうございました。

梅内総合計画課長

重点プロジェクトについてなんですが、今申しあげました様に、二つの体系に分かれたときに両方結ばなければならないとか、横断的に取り組むべきものを重点プロジェクトのような形で設定していきたいということで、これは庁内でも設定していく方向で進めますと申しあげているところなのですが、もう一つはこの10年間の計画ですのでこの10年間で取り組む大きなプロジェクトといいますが、一つ代表的な東西線の関係なのですが、そういうものと同じ重点プロジェクトという言葉で書いてしまっているのももう少し分けるべきだったと思っているのですが、そういうような二つの全市的な横断的な

ものと、今までご指摘があるような横串だったり組織編成をうまくやって連携しながらやらなければならないというパイロットプロジェクト的なものを、分野別の上になのかそれと関連づけてなのかということは今検討しておりますけども、設定していかなければならないのかなという課題意識は持っております。

#### 小野田泰明委員

それは大事だなと思っておりますけど、四つに分けて縦割りだといわれるかもしれないけど、四つは結構大きいですよ。横串で語る重点的な話はもう少し個別的なものでレイヤーがかなり違うのではないかと思います。四つだと縦割りだから三つにしましたというのはほとんど意味がなくて、むしろかなり下のところに横串をどう刺すべきかというプロジェクトが様々に眠っていて、問題はそれをきちんと設定してやれない状況にある。西大立目先生や柳井先生がおっしゃった問題もかなり個別な話です。四つを二つにしたから横断的だという話ではないように思います。四つから二つになって次どうなるのみたいな、混乱するような気もするのですが、四つは四つでこう大きな筋がありますと分野別では明確にうたっておいて、縦割りと言われようが、縦割りの批判もわかるけど、法治国家だから法律に基づいてしくしくとやらないといけない。川上の方では根拠法や予算があったりするから縦割りにならざるを得ないと思うのです。だけど、川下の方ですごく硬直的に住民に対応すれば苦情を言われるだけです。現場でどうやってフレキシブルに対応してリスクヘッジできるかという仕組みの問題だと思います。ですから先ほどから基本計画の推進の取組のやり方が最後でいいのかという話がありますがけれども、基本計画の基本的考え方の中に仕組みもきちんと考えますと、ここに書いてあるのは横断的なプロジェクトで数値目標や重点的プロジェクトを設定しますと、設定しますというだけでそれをどう評価してかつ適切にやれるような仕組みにしますかという駆動の仕組みが書かれていません。それは入れて、分野別計画について川上では分野別に分かれる計画を現場ではどう横断的につないでいくかという仕組みを7ページの上の分野別計画(2)と書かれているところに書いてあげれば解決するように思うのです。縦割りできっちりの方がいいものもあるし、そうじゃなくて横断的に横串でやった方がいいものもあるし、それをどこでどう仕分けして横断的プロジェクトを毎年どう市民参加で決め、決まったときにどういう仕組みで組織体をつくり、それをどうやってレビューして市の仕組みの中にフィードバックするというのがここに書かれていれば、それはそれなりにいいと思います。基本計画だからあんまり個別に細かいことをやらなくていいわけだし、10年後も細かい話がなかなか見通せるかわからないのでここに書くべきは仕組みでいいのではないかと思います。

#### 大滝精一委員長

はい。ありがとうございます。二つあって、一つは2分することについてどうかということと、全体の仕組みの部分とか実際にそれを具現化するのかということとをどんな形で入れたらいいかという話を小野田委員からいただきました。

#### 山内企画調整局長

分野の話については4ページの基本構想の3番目の「将来目標(2)」に掲げていますように、こういう目標体系にした場合に想定される分野というのはおおむねこの流れになっており、これは従前に比べて子育て関係は学びの方に移したくらいでは従前の想定分野と同じ形になっております。このままの体系で政策推進するとした場合に、共生の部分と活力の部分が政策分野としては圧倒的に多いのです。学びと環境のところは政策の内容としては少ないということで、これが実施計画のレベルまでブレイクダウンしていくと政策体系のアンバランスが出てくる面がございます。それでもいいということであればそのように考えることもできるんですけども、やはり市民の目線で見た場合に一般的には自分自身あるいは暮らしている地域の観点でどういう政策が流れていくかという見方と、やはり都市全体を俯瞰してどういう政策が流れていくかというのが一番市民目線でわかりやすいのではないかとということで、先ほどお話していたような基本計画の分野別のとらえ方としてはこういう体系にしてはどうかと。元々は横断的、横串というご指摘をいろいろいただいております、庁内的にもいろいろな体系を組んでみていろいろやり取りはしているんですけども、具体的に拾いつくしてみないと見えないうい部分もあり、引き続きそういう作業と並行して議論をいただければと思います。

#### 梅内総合計画課長

基本計画の推進、仕組みの部分を計画の基本的な考え方に入れるべきではないかと小野田先生からご意見がありましたけれども、我々も上の方にもっと書くといったときにこの中にしっかり仕組みを書けるのであればそれは推進でもありますし、この計画をしっかりと進めていくというのが基本的な考え方になるわけですので、この辺りに入れていくのがいいのかなと考えておりますが、今のところは下の方に書いてしまったので不十分な表記になったと思います。

#### 柳井雅也委員

確認なのですが、基本計画の推進について実際にプロジェクトベースというか計画が動き出すと、恐らく庁内の組織再編成までより効率的な機動的な組織体制というところまで組み込まないと難しい部分や場面がかなり想定されるのですが、そういったことも含み込んでいるということによろしいですか。確認だけ。まだ、言えないですか。

#### 山内企画調整局長

推進については従来の総合計画の中でも同じなのですが、推進を実際に担保するような仕組みの問題と手法面として市民力を生かすとかその他行革的な視点も含めた制度運営的な部分、両面あるのですね。どの面をどこに持っていくかという課題がございますけれども、具体的な仕組みとしていったいどういったものを構築できるのかということを見定めながらでないとなかなか全体体系は最終的には決着付かないだろうということで、すべてが同時並行でやっていかないといけないと思います。



#### 柳井雅也委員

実際、横断的にやるということは人材と税金の重複投資を節約していく効果も出てきますので、是非そこをもう少し注目していくとそういった問題にぶつかっていくのかなと。例えば、道路に穴を1個開けるのに、水道局でやってみたり建設局でやってみたりとかしますよね。その辺りまで組み込めるのかどうかというのが大事な部分かなと思っています。

#### 大滝精一委員長

基本計画の中にどこまで何を書き込めるのかというのはもうちょっとこの基本計画の推進の部分でもう少し議論があっていいと思います。柳井先生のお話について私はいいと思いますし、この中にも行財政改革の推進という事に入っているわけですから、組織そのもののあり方を変えていくとかそういう話は当然本来あってしかるべきだという気はするんですね。ただ、行財政改革の推進といったときに抽象的にはわかるけど、何をどこまで書き込んだらいいかということについては、単に行財政改革計画の中で粛々とやっていますという話だけでは多分だめでしょうから、そういうことについてはもう少し検討をした方がいいと思います。

#### 小野田泰明委員

それをやるのでしょうか。前回も言ったと思いますけども、僕もかなりそういうことについては積極的なんですけど、設計者なのでものの設計もしますけど組織の設計もしたり、いつも生徒と戦いながらいろいろな仕組みをつくったりしているので、そういう観点から言うと、その仕組みをつくるにはきちんとしたベンチマークというかメジャーが必要で、NPMがあれば力を持ったのはそれをマーケットに照らし合わせてどうなのかと明確に評価できたからです。イギリスほどドラスティックではないですけども、ある種市場に任せてかつそれで行政をスリム化しましょうみたいな物差しがあるわけですけども、今回のような市民力、自立的当事者というかなり抽象的な概念でこれから作り上げていかななくてはならないものと、それをどうそれに合わせて行政の仕組みをシンクロしていかなければならないのかは、なかなか両方同時にはできないのではないかな。私はプラグマティストですので、それはちょっと危険な気がいたします。そうではなくて自立的当事者というは一体何なのかというのをパイロットプロジェクトできちんとつくって、そこは積極的に投資をして横串の組織をつくり、それを実際の組織にフィードバックするとどうなのかというのを10年間考えて実際やりながら試して失敗してもう1回フィードバックしてそれを間断なくしっかりやる。その成果については市民にきちんと公開してこういうふうになり、横串横串と言っているけど、ここでは横串をやるけどここでは横串をやらないほういいというふうにやりますと目標を提示する。それで予算が節約できればいいけど、それはなかなか難しい。予算節約とイコールにはならない。むしろ、人が動く経費を考えると持ち出しになる傾向がある。重複投資をどうするかとかそういう話はバジェットをどうコントロールするかという話なので、それは今回の計画に入れるのか、若しくは経営体としての仙台市にもっと慎重に考えていただいて、

それはプロに任せる。国会でも議論しているし。要するに国の予算配分とも税収をどうするかとか密接にかかわりますから。そこまで総合計画が幅を広げて書くことは書けてもほとんどと担保できないと思うんです。

大滝精一委員長

私も先ほど言ったことはそういうことで、その中で行財政改革そのものの具体的な設計図を書いてくださいとかではなくて、行財政改革の大きくいうと方向性とかそれと市民力の関係性とかそのようなことを基本的にはここで書くということだと思うので、ただ行財政改革のようなどこまで何を具体的に書くかということについては、今ここで決められることではないと思うので少しこの後の検討事項として考えていくということによってよいのではないのでしょうか。

山内企画調整局長

そのとおりだと思います。ただ、これからは都市経営は不可欠な要素でございまして、行財政改革についても新しい行財政改革プランを今年度から5年間の計画としてもうすでに策定しているという状況もございますので、そういった方向性というのは組み入れて総合計画を策定していく必要があると思います。その組み方、自立的当事者としての市民力のさらに高めて生かしていくということも含めてどのように組むかということもございます。

小野田泰明委員

むしろ、局面では行財政改革とは対立するような部分も出てくると思うんです。

山内企画調整局長

ただ、行財政改革自体も、今回のプランニングでも非常に重視しているのはまさに自立的当事者というか市民力を。

小野田泰明委員

いやそれはわかるんですが、そこでいつも財政の担当者とすごく厳しく議論させていただくのですが、それをやるためには呼び水としてきちんと計画費なり調整費を事前に投入してかなり耕しておかないといけません。その投資があって始めて、しかも市民力が育つのは時間がかかるから、10年くらい経ってかなり自立的になってエンフォースメントできるようになってこちらの直接経費が減るんですが、そう財政の担当者は考えないでできるだけ強制的に切りたいという話を受けます。それならそこで切るのではなくてもうちょっと違うところで、公共投資のグレードを下げるとか道路はこんなにきれいじゃなくてもいいとかちょっとくらい傷ついていてもいいとか、グレードを下げることを理解していただいてその分でコストを浮かせて経営体の方に投入するというふうになると思うんです。ところが今これだけ財政状況が厳しいとそういうことを言っても絵に描いた餅で、パイロットプロジェクトで証明してそれをフィードバックしないとかな

か実現しないので、パイロットプロジェクトを瘦せさせないように行財政改革とこのプロジェクトは直接リンクさせないで、むしろ今はパイロットにお金をきちんと投入しておく、将来足腰が強くてサスティナブルな経費が削減できる仕組みができますが、それには10年くらい掛かりますというような筋道に僕はすべきだと思います。僕はプロジェクトを実施するときはコストカッターで非常に厳しくて、お金はすごくケチだとみんなに言われているんです。でも使うところに使って、使わないところは思いきって切るようにしないと全然財政改革はできません。だから、これはかなり長期的な話をしないといけないから、それと少し距離を取って、むしろそこと戦うくらいの方が勢いがあって、現場はやる気が出て結果としてよくなるように思います。

#### 梅内総合計画課長

パイロットプロジェクトのようなところでは、今おっしゃったようなよりお金をどれだけかけることができるか確かにわからないんですけども、組織のお話がありましたが、例えば既存の組織のままでしてもパイロットプロジェクトに関しては局長たちが必ず入ってする仕組みでありますとか、組織を変えなくても発令を変えてみんなが兼務して一時期集めてやる仕組みでありますとか、そういうようなものが必要なのかという議論が内部で行われております。今、小野田先生がおっしゃったようにだいたい落としてしかなければならないところは間違いなくあるのですが、パイロットプロジェクトの中で積み重ねをきちんと残して反省点を次にきちんと残して、その別の事業に広げられるようなものをどのようにつくっていけるかを考えなければいけないと思います。

#### 大滝精一委員長

はい。ありがとうございました。後残り5分くらいになりましたので、今日の全体の総合計画そのものの体系、基本構想の構成、基本計画という形でずっと一通りご提案いただいたんですけども、何か言い残したことから余りこれまで議論になかったことで皆様の方からコメントを、全体としていただきたいと思います。

時間の関係で余り議論できなかったところですけども、結構前の総合計画と違ってあることの一つは冒頭にも出て来ましたが、これは資料2をご覧いただければと思いますが、今までは施策の体系みたいなものが基本構想の中に入っていたんですけども、それは基本的には基本計画で市として施策については具体的に議論するという形で、基本構想のところは構想のところでは集約していくという形に全体構成を変えていこうというか、これまでは施策の基本方向という形で入っていて、また基本計画の中にそういう話が出てくるんですけども、そのところは余り重複がないような形に再編集してしまうという提案が入っているのんですけども、このような提案で基本的によろしいでしょうか。

#### 小松洋吉委員

スッキリしていいのではないのでしょうか。

小野田泰明委員

前よりはすごくよくわかりやすくなっていると思います。

それから、先ほど庭野先生からお話があった将来目標ではないのではないかというお話は将来目標ではないですね。何となく書き下すと目標達成のために求められる都市像です。ただこんなに長い言葉は使えませんが。目標というのは市民力が都市の魅力と市民力が相互に相乗効果するような、住んでいて幸せになり都市の魅力も増すようなところをつくるために、どういう都市像が提示されるべきかという都市ビジョンとか何かそのような感じ、都市像と書くとかなりフィジカルなイメージがありますけど、何となく方向性を包含したフィジカルなもののイメージとして都市ビジョンとかそんな感じがしますが、余り片仮名を使ってはいけないのかもしれないと思いました。

大滝精一委員長

都市像という表現だけが市民にわかりにくいのだったら、仙台の将来の姿とかそういう言葉に言い換えることはいくらでもできると思うんですけども、ただそれだけの話ではないんでしょう。都市像という具体的なイメージがあってという話でこういう提案があるんじゃないかなと思うんですけど。確かに先ほど庭野先生がおっしゃったように将来目標というと目標と言えなくもないけど、目標というと何かこう限定的なイメージというか、こういう目標があってそこに向かってみんなでその達成に向けて努力してクリアできればこうなるというイメージがあるので、この将来目標という言葉聞いたときにそれこそ市民の人たちが目標という言葉でどういうことをイメージするのかというと、何となくここに書いてあることとちょっと違うんじゃないかなという印象は持つんですよね。

梅内総合計画課長

ご議論を踏まえてちょっと庁内で話し合って、今日も今までもたくさんご意見いただきましたのでこれにつきましては全体的に見直しを行いまして委員長とご相談させていただきながらスケジュールの話をしますけども、審議会を予定しておりますのでそれまでに修正を加えていきたいと思っております。

大滝精一委員長

はい。ちょうど時間になりましたので、閉じたいと思いますけれども、もし何か確認をしておきたいこととか一通りいろいろなご意見いただいたつもりではいますけれども、限られた時間の中でいろいろな論点について聴かないといけなかったのが一番大変なんです。

小野田泰明委員

でもすごく前に比べて前進した感じがします。お疲れ様でした。

柳井雅也委員

見えてきましたよね、いろいろなことがね。

大滝精一委員長

非常にクリアになっていると思いますね。

間庭洋委員

全体としての話ではないのですが、例えば３ページの仙台の将来目標（１）にありますキャッチコピーはいろいろな議論が必要だと思うのですが、住むということはよく使う言葉ですが、働くことも含む暮らしの方が幅がはるかに広いので、住むというと非常にわかりやすいんですがちょっと狭い意味になってしまって、市民には非常に近い言葉ではあるんですけど概念として非常に狭いことになってしまって、人が輝きというのは生き様なので暮らすということも含んでいると思うんですけども。

同様に後ろの方にあるのですが経済の部分と市民力とか考えると、雇用、働く場とか就労の場の雇用、これは必ずしも経済だけではないんですよ。そのところがちょっと経済だけにしか入っていないかなという感じがしているので、暮らし続けていきたいという背景に、働くだとか市民力を発揮するだとかみなつながっているので、雇用という言葉の方がもっと意味合いとしては必ずしも経済的な行為だけではない部分があって市民力ともつながる言葉だと思いますので、そのところも今後これをまたまとめていく中で意識しておきたいなと思います。

大滝精一委員長

はい、ありがとうございました。今日たくさんのご意見いただきましてありがとうございました。たくさんのご意見を参考にして事務局で修正を加えていただいた上で起草委員会の議論による全体構成案として次の第４回審議会に報告をさせていただくことにしたいと思いますけどそんなことでよろしいですか。今日議論ありましたように全体の構成としましてはすごくクリアになっていると思いますけど、中身についてはまだもちろんこれからいっぱいやり取りしなくてははいけませんし、庁内の中でもいろいろな議論がこれからされてさらにまた審議会の中でということだと思いますので、その意味では今回の議論はある意味骨格だけを示しているということになると思いますけれども、そのような形で第４回審議会に報告する形にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(3) その他

大滝精一委員長

続きまして皆様から何かご意見等ありましらお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(特になし)

大滝精一委員長

それでは皆様ありがとうございました。議事はこれで終了したいと思います。

### 3 閉会

大滝精一委員長

最後に事務局からご連絡いただきたいと思います。

梅内総合計画課長

はい。たくさんのご意見ありがとうございました。

委員長からありましたとおり、ご意見を踏まえまして修正を加えてまいりたいと思います。

次回ご連絡を正式に差し上げますが、5月31日18時30分からの予定で第4回審議会を開催する予定でございます。その中で本日の全体構成等につきまして修正を加えたものをお諮りするとともに、その次の段階では体系等について具体的なものを決めていかなければならない、重点プロジェクトでありますとかパイロットプロジェクトの取扱いを決めていかなければなりませんので、審議会の方ではその後細かく意見がいただけるように部会のようなものを設置して個別具体的に議論をしていただくことも想定しておりますので、次回の審議会の際にその点についてもお諮りしてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

大滝委員長

はい。どうもありがとうございました。これで閉会といたします。